

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500491		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	グループホーム ライフ		
所在地	長崎県大村市宮小路2丁目1408番地		
自己評価作成日	平成27年12月28日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4270500491-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 2 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改築の環境なので、高齢者の方にとって馴染みのある雰囲気で家庭的である。幅が狭い廊下は歩行のしやすさ、一般家庭と同じ浴槽は安心感につながっている。猫を飼っている事で、猫好きな入居者様・家族様の癒しやコミュニケーションになっている。診療所併設で、常に医師・看護師と連携しながら支援が出来る。その他の部署(通所リハビリ・調理)とも連携を取り、人員配備の補助や食事提供の充実。緊急避難訓練、行事の際も他部署と連携し入居者様の支援に繋がっている。職員の年齢層に幅があることで、多角的な視点で介護が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改築の環境のなか、入居者・職員が動物と共に暮らす懐かしい家庭的な雰囲気が窺える当ホームは、自分らしく、個人を大事にし家族との信頼関係を築くよう努めている。帰宅願望・徘徊の入居者に対しては原因の把握に努め、個々に応じた対応に取り組んでいる。元民家の良さを活かし、お風呂も自宅と同じような感じで安心して入浴してもらい、誕生会には家族を招待し共に祝ったりと、入居者・家族・職員が楽しく過ごせる時間を作るよう図っている。また、長年ホームで飼っている猫は入居者の癒しとなり、入居者同士または入居者と職員等の良いコミュニケーションとなっている。併設の医院とは通所口でつながっており、24時間医師・看護師と連携しながら支援ができることは入居者・家族・職員にとって大きな安心に繋がっている。母体医院と併設通所リハビリ等職員と協働して行事や業務・避難訓練に従事する姿からも、法人の連携性が窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームライフ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	診療所併設である為、安心感をもって入居者様と、ゆったり楽しく自分らしく地域の一員として共同生活をする理念を共有し実践している。	理念にも掲げているとおり、母体の医院が24時間対応可能であり、入居者・家族・職員の安心に繋がっている。入居者の高齢化・重症化に伴い全員での行動は減っているが、個々に応じた対応でそれぞれのペースを尊重するよう取組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花祭りや敬老会に地域の方々が参加されている。	地域の子供会・老人会のいも焼に参加。中学校からの母体の医院へ福祉体験があった時は、2～3時間の訪問を受け交流の機会を設けている。以前包括支援センターを通じて公民館で認知症予防の講演を開催し、70名程の参加があった。現在は家族介護教室の開催を検討中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院との合同避難訓練や夜間想定での避難訓練で地域の方々に認知症の理解や支援方法を活かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長寿介護課、町内会長、民生委員、家族代表の方々に二ヶ月に一度、運営推進会議で入居者様の状況や取り組みなどの報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。	入居者の状況や職員の異動・ホームの近況等を報告している。参加メンバーより火災時のベルを付けて欲しいとの要望があり、屋外に非常ベルを設置した。欠席したメンバー、他家族等へ新聞と共に議事録の配布を再開する予定である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大村市より介護相談員が二ヶ月に一度、訪問され入居者様と会話される。職員とも会話しケアサービスの取り組みを伝える。	運営会議を通じて家族と行政の意見交換の場を設けている。職員不足のなか、帰宅要求が頻繁な方は昼間つきっきりの見守りが必要な方もおり、入居者の状態(足腰が悪く疲れやすい)で可能な外出をする等の対応で取組んでいる。また、市の介護相談員とも連携を取りながら、行動の背景・対応を探っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関の施錠を行っている。ベット臥床時転倒のリスクがある方は家族様に承諾をいただきセンサーを使用している。	転倒のリスクが高い方には家族の了解を得て、センサーを使用している。また、家族の希望もあり、入居者の状態に応じ必要時(就寝時・食事時)のみベッド柵を使用しているが、昼間は使用しないよう取組んでいる。職員は「ちょっと待って」の前に説明し納得してもらうよう声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待しない、見過ごさないように職員間で注意を払うように心がける。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて情報提供ができるように知識を高めるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画担当者が立ちあい十分な説明を行う。不安や疑問がないように理解して頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族様面会時に意見や要望をお聞きするようにしている。	防災訓練に参加された際に、建物からも近隣住民に知らせる為ベルを鳴らしてほしいとの要望があり、非常ベルを屋外に設置した。入居者の興味ある事を把握し、今後の支援に工夫・反映し、家族と情報を共有し共に支える関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングでの職員間の意見交換や朝の申し送りでも気づきがあれば聞くようにしている。	日常生活の支援の中での気づきや福祉に関する意見は多く、院内外の研修に参加した後はミーティングで報告して全職員で共有しており、職員のチームワークに繋がっている。また、法人からの職員応援もあり人員の安定を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休などはなるべく休めるように配慮している。人出不足が解消されず他の部署からのお手伝いでどうにか勤務が回っている状態である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会があり、院内の勉強会には参加している。また、院外の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市のグループホームで作っている各駅停車があり、勉強会や意見交換を行う。また相互実習を行い他の施設に行き一日体験を行ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の困っていること、不安なこと、意見や要望を聞き、安心感を保てるように何でも話せる環境をつくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っていること、不安な事意見や要望を聞き、何でも話せる環境をつくる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様が支援を必要としているその時を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ができる事に取り組んでもらう等支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・電話連絡などで情報を共有しあい共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へ散歩など支援している。	入居者からは「外に出てみらんと寒さも分らんね～」等の声もあり、入居者の希望を聞きながら、できるだけ馴染みのある場所へ散歩に出かけたり、理容室へ出かけるよう努めている。また、家族の協力を得ながら近所のお宅へ訪問する事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合ってもらったり、時には間に入って良好な関係が保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様が古新聞を持ってきていたいたり、関係を断ち切らないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接希望を言わない方でも日頃の言動から意向を把握できるように努めている。	日頃の言動から意向を把握できるよう努めている。声掛けを常にして反応・動きを観て何をしたいのかの把握に努めている。農業経験者は花壇の草取りをしたり、時期に応じての家庭菜園は収穫の楽しみに繋がっている。	ヒヤリハットは事故だけでなく、体験した事は職員の観察眼の表れであるとも考えます。積極的に記録をとり、予防対策を話し合い計画書に反映し、入居者の思いや意向を更に深く把握する事に繋げる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の状況や生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りの記録で毎日の状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の要望があればミーティングなどで話し合い本人様へのケアの在り方を考えている。	入居者・家族の意見を反映しながらケアマネが作成している。入居者の状態に応じて医師・家族・職員と相談しながら、気づきや指示を個人記録等に記載し、計画書を意識してサービスの提供に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や言葉や気づきがあれば個人記録に記入して。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況、その時々生まれるニーズに対応して既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方が多く、自宅に帰ってゆっくりとした時間を過ごしてこられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所併設である為、本人様や家族様が受診希望があれば受診し、適切な医療を受けられるように支援している。	母体医院からの往診が月2回ある。看護職員と連携を取りながら、状態変化があれば受診する事もあり、家族へは電話で報告している。その他皮膚科・歯科など、初診時は家族にお願いし、後の通院は職員が対応している。昔からの馴染みの医師の為、本人・家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良・皮膚の状態・点滴・血糖値測定など適宜、看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所併設なので密に看護師と連携がとれている。情報交換もできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様に説明し、看取りの指針同意書をもらうようにしている。	過去に看取り経験があり、看取り指針を作成した。これから家族に指針の同意を得る予定である。看護師と連携を取り、段階を踏まえながら家族・医師と話し合い、病院と協働しながら支援していく方針である。過去にはホームに泊まりがけで看取りに関わった家族の事例もあった。	重度化した場合や終末期に備えて全ての職員が本人・家族の方を支援していけるよう、段階を踏まえて研修・勉強会を実施し、マニュアルを整備する事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院内の勉強会で実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜とわず入居者様が避難できる方法を火災・地震・水害などの避難訓練を定期的に行っている。地域との協力体制もできている。職員が消防団に入団し知識を得ている。常日頃からコンセントのほこりなどに気を付けている。	年2回の避難訓練を実施している。訓練には同法人職員等と入居者が合同訓練に参加し、職員は一連の流れを体得できるよう訓練に取り組んでいる。また、消防団員や地域住民も参加しての訓練も実施し、地域との協力関係の構築にも努めている。備蓄品一覧表で備蓄品の管理を行っているが、数量が少ないので様々な災害を想定し、再検討中である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、年輪を重ねてきた誇りやプライバシーを損ねないように、敬いの言葉かけを心がけている。	言葉があらくなったり気になる言葉かけがあった場合、その都度注意する。できるだけ入居者に決定してもらえるような言葉掛けをし、個々の人格を尊重するよう取組んでいる。外部からの講師を招き、接遇マナーについて勉強会を実施したが、期待した効果が得られていない。	一人ひとりの人格を尊重し、年長者（人生の先輩）として敬いの気持ちを常に忘れない言葉かけ、親しみと馴れ合いの違いについて職員で話し合いの場を設け、接遇マナーについて振り返る事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	正月、家に帰りたいと言われれば家族様にお電話して、希望を伝える。散歩に行きたいと言われれば連れていくなど、自己決定の支援はできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝が寒くなると起床の時間が遅くなることがあるが「もう少し寝させて」と言われればその方のペースを優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらいその人らしさの支援をしている。毎朝、整容出来ない方は支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様ができる範囲でお手伝いをしてもらっている。お盆拭き・ごますり・もやしの根とり・味見など	栄養士のアドバイスを受けながら、季節感を盛り込んだ栄養価の高い、おいしい食事を心がけ、楽しみの場となるよう席に配慮している。職員は弁当を持参し、会話しながら見守り・一部介助を行っている。エプロンたたみ・お盆拭き等、入居者は個々に応じた手伝いをしている様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援している。義歯の方は清潔保持のためポリデント消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の記録をしている。日中は(二人介助等で)トイレに座ることで自立に向けた支援を行っている。	昼間は排泄パターンを把握してトイレ誘導し、ベッドから移動し立ち上がることがリハビリとなるよう、トイレでの排泄を促している。また、入居者の状態に応じたパット(厚さ)・リハパン・布パンツを使い分け、不必要な使用をしないよう取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などで便通を良くしたり、服薬で調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する方が多い為、声掛けにも一工夫が必要である。温泉の入浴剤を使用したりしている。	入居者の好きな歌を歌ったり、昔話を聞いたりして入浴を楽しんでもらうよう取組んでいる。拒否する方は翌日声掛けをしている。拒否する原因の把握に努め、衣服を着脱が簡単にできる物にする等、工夫して支援に取り組んでいる。また、浴室の段差解消に、すのこを使用して安全面にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅で使用していた布団や毛布を持ってきてもらい、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の理解をするため、薬の説明書には目を通し理解する。確実に服薬できてるか確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・買い物・手仕事(裁縫)など気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理容店、買い物に出かけたり支援している。正月、初詣に地域内の神社に出かけ、支援している。	家族の面会時に一緒に買い物に出かけたり、自宅に帰ってゆっくり過ごしてこられる。暖かくなると車いす利用の方を含むほぼ全員の入居者が、個々に散歩に出かけ、職員が付き添い・見守る等の支援に取り組んでいる。大村公園のさくらや菖蒲見学は楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をしたいと言われ洋服を買いに行き、職員が支払いをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと言われれば自ら電話をかけられる。家族様への年賀状を書かれたりするのを支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃をし、換気や室温に気を付け居心地良く過ごせるように配慮している。季節の花を飾ったりして季節感を感じてもらう。	元民家を改造してある為、手すりを付けた廊下は独歩の方には歩きやすい作りとなっているが、車いす使用の方には狭い感じがある。共用空間に近いトイレが時々混雑する事もあり、台所で調理をしながらでも入居者に注意が向けられるよう壁面上部にミラーを設置し、死角へ配慮する工夫が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでくつろいだり居室にいつでも行ける環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が使っていた物を持ち込んでもらい、自分の居室として心地よく過ごせるように工夫している。	居室に手作りの小物や家族の集合写真、手書きの家系図などもあり、家族の思いが感じられる。居室入口には入居者の状態(車椅子・手引き等)を表示した表札があり、表札裏面の「避難済み」の記載には、有事の際に避難の有無を分かりやすくする為の工夫が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、歩きやすいようにじゅうたんにしている。場所がわかるように表示している。奥トイレは車椅子でも入れるようにしている。		